荒尾市立府本小学校　校長便り　№.１０４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年6月8日(月)

【愛語録】

みんな失敗を厭うもんだから 成功のチャンスも少ない。　本田宗一郎（ホンダの創業者）

先ずは足元から

日頃心掛けていること。自己満足とは思うのですが、私はできるだけ履物を揃えるようにしています。学生時代の部活の影響で、必ず並べるという癖が付いたのですが、その時、部活でお世話になった方がこう仰っていました。

「履物を揃えるということは、心を整えるということと同じだ。」

この考え方は、「一事が万事」という考え方に繋がっていきます。靴も並べられないような人は、全てにおいて「整える」ということはできないということです。私は自分の言動をきちんと律することができているかという問いには、胸を張って「できている。」とは答えられませんので、できるだけそれに近づこうと、努力をしている最中です。自分をきちんと整えるということは、先ずは自分の身近な所から整えていくことが重要だと感じていて、靴を並べる、時間を守る、期限を守る等々、できることから始めているところです。自己満足ですが、愚直に実行中です。

「心のきずなを深める月間」に寄せて

6月は「心のきずなを深める月間」です。この月間の取組の視点の一つに「いじめ防止」があります。まず確認しておきたいことがあります。それは法律です。「いじめ防止対策推進法」と言います。この法律に、次のような条文があります。

「第4条 児童等は、いじめを行ってはならない。」

この条文に照らせば、いじめは違法行為になります。罰則規定はありませんが、絶対にしてはいけないことです。いわゆる最近のいじめは、我々が子どもの頃とは少々様変わりし、単なる暴力だけではありません。言葉やSNS等によって辱めることもいじめです。

いじめが発生するのは仕方がないことだという人がいますが、それは間違いです。何故なら、いじめは人の命に係る重大なことであり、実際にそのような事件が起きているからです。法律の制定も2011年大津市で起こった中2自殺事件から、制定が加速していった経緯があります。

学校では、いじめとはいえなくても子ども同士の小さないざこざはたくさんあります。その殆どは、相手に対して自分が優位に立ちたい、自分の思い通りにしたいものだから、暴力や言葉、SNS等を利用して相手を辱めるのです。そして、そのような子は人を叩き、ののしり、そのくせ自分の権利ばかり主張することが多いです。カ、言葉スマホやSNSを使って人を貶めるのはすべて暴力ですね。暴力でねじ伏せられ、辱められる気分を自分に当てはめて考えてみると、いじめは絶対にいけないということが分かるはずです。

更に、我々大人の責任も考えたいです。子どもの自由を尊重することと甘やかすことは違います。間違いを起こしても叱らないということは、大人としての責任を果たしていません。目標を持たせず、ただ自由に、そして甘やかすことだけは避けなければなりません。明るい未来社会のために、大人としての責任を果たしているか考える必要があると思います。

シリーズ「自分を語る」#104

それまでの学級の実態を聞き、余計に「やってやる！」と闘志が沸いた澤田です。兎に角、すべてを一からやり直しです。私の頭の中で構想は出来上がっているのですが、それをやってしまっては、自治の下地はできません。子ども達に任せることから始めます。当然、軌道修正はしますがね。先ずは子ども達に問いました。子ども達はこれまでの自分達に嫌気がさしていましたが、閉塞感のある学級の中で、「諦め」にも似た雰囲気が漂っていました。そして、腕力にものをいわせ、あるいは派閥にものをいわせて学級を牛耳る者が存在し、正義や真面目という価値が認められなくなっていて、明らかに「居場所」からは程遠い状況でした。んで、私から一言…。

「どんな学級にしたい？」

思いを「ぼそっ、ぼそっ」と呟く子ども達、でも次第に「言ってもいいんだ。」って雰囲気になり、心の中に残っていた正義感が首をもたげてきました。そして、私は担任として何をしたか？　それは、真面目に意見を出した者、正義感や規則を尊重して発言した者を笑ったり馬鹿にしたりする者に対して、徹底的に指導し、向き合い、明確な言動の変化を求めました。そして、その事を学級全体に問うことを忘れませんでした。

「ルール違反や我がままを許していいのか？」

学級開きから1週間で劇的に変化しました。というより、実は2日目から激変していたのです。その理由は、以前の伊倉小学校勤務が影響していました。一昨年までの勤務で、私は自覚していなかったのですが、目に見えない信頼関係ができていたのです。私は担任教師時代、常に保護者に対してはこう言っていました。

「学校、保護者、地域は三位一体です。子ども達の成長は、3者の連携です。」

平成21年度は、私自身に不安もありました。「今年は怪我して帰ることもあるかな…」なんてことを本気で思っていましたから。でも、目の前の子ども達から目を背けることは、これまで自分がやってきたことに反します。ま、かっこよく言えば、私のポリシーです。手のかかる子達は、その行動を通して私達にサインを発していることが多く、それに寄り添うことができない教師は、間違いなくお手上げ状態になります。逆にそのサインに正面から向き合い、課題解決のために良らいつく教師は、卒業後にも長い付き合いができます。どういうことかというと、子ども本人を好きだからこそ、将来を思うからこそ、目の前の課題を放ってはおけず、厳しい指導になる訳です。課題ではなく子ども自身を嫌ってしまうと、信頼関係はいつまで経っても出来ません。

すっかり話が反れましたね。子ども達は一気に変化しましたが、それで何も行動目標が無ければ、時間を持て余し、自治が成り立たない可能性もあります。学級を切り盛りしていくために、3ヶ月スパンの目標とスモール・ステップを設定していました。そうそう、ナイトハイクです。ナイトハイクに加え、更なる仕掛けを施していくことになりました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）